



あけまして
おめでとうございます
本年もどうぞよろしく
お願いいたします

会長 中山 喜重ほか
役員一同

写真提供 駐日モンゴル国大使館

会報
MONGOLIA
モンゴル
VOL. 50 2008.1.1
●発行所 中山 喜重
●発行所 長野県モンゴル親善協会
長野市奥町528
TEL・FAX 026-235-6717

新春ゆめ放談

モンゴル留学生

新春の夢を語る!

■中山喜重会長

長野県には県下を縦断し、やがて日本海へ注ぐ千曲川という大きな川があり、この源流に近い小諸市に御牧ヶ原という台地があります。古代、この台地の牧場で、皆さんの祖先が馬の飼育を指導していたという歴史があります。だから信州人とモンゴル人とは深い縁がある訳です。

私たちはモンゴルの人々と互いに理解しあい友達になりたいと思って、一九九〇年にモンゴル親善協会を設立しました。間もなく創立20周年を迎えます。私たちは毎年、モンゴルを訪問して、大自然に触れ、友達になり、伝統文化を体感することなどをし、相互に理解をしあうように努めてきました。

今、長野県に留学している皆さんが、何を勉強しているか、感じているか、また、母国に帰って何をしたいか、将来にわたる大きな夢をお聞かせください。ではまず、留学先が何故、日本(長野県)だったのか? お聞かせください。

■留学先を日本に選んだのは?

■ツオゴ・デルゲンサイハン(デギー)

(信州大学工学部・情報工学科2年)
父親に薦められて、日本への留学を決めました。自分の中でも留学を考えていた時期だったからタイミングが良かったと思っています。

■ボルドバートル・ウヌルジャルガル(ウジャ)

(信州大学経済学部・経済学科2年)
小学校時代から日本人に会う機会が多く、日本に興味がありました。それに私の卒業した新モンゴル高校では、1年の時から日本語の勉強をしていましたし、日本を知っている人々が日本のことをよく話してくれました。自分の国の発展は、先進国に学ぶのが一番と考え、身近に感じていた日本への留学を決めました。



■ガンホヤグ・ボムザンダン(ボマー)

(信州大学経済学部・経済システム法学科1年)
4年前、母の知り合いの日本人が来た時に、日本語を聞いて美しい言葉だと感じました。日本語を話せるようになりたいと思って、私も新モンゴル高校で勉強しました。だんだん日本に興味が出てきて、一番親しみのある日本に留学しました。

■バトムフ・エルデネジャルガル(エルジイ)

(長野高等専門学校・電気電子科2年)
日本へ留学の理由は高校を卒業後、日本の文部科学省の奨学生試験を受験したら幸運にも合格したからで、長野高専へ来たのも文部科学省が決めてくれたからです。今はウランバートルの風景に似た長野で勉強できて良かったと思っています。

